セットシリーズ

竹演(ちくえん)19

施工説明

※竹演セットのアルミ部材や竹材料は融通性を持たせるため、穴あけ加工は施されていません。 現地にて加工してください。

グローベン

■骨組図

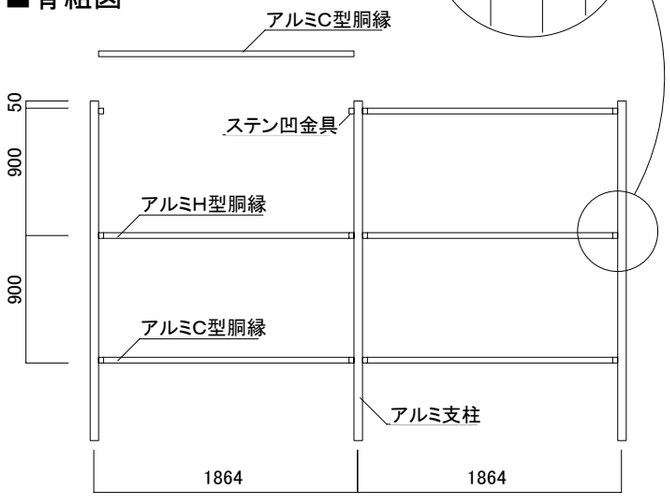
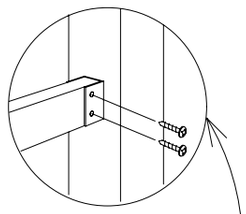


図1



【竹演19】
①アルミ支柱(60×60)アルミC型胴縁、H型胴縁を現場に合わせてカットして下さい。

②アルミ支柱中央にステン凹金具(LT301B)を取付けて下さい。取付はブロンズビス4×16(サラビス)を使用して下さい。
アルミ柱をモルタル等で固定して下さい。

③ステン凹金具(LT301B)の溝にアルミC型・H型胴縁を取付けて下さい。
取付はブロンズビス4×16(ナベビス)を使用して下さい。※図1参照

④組子(丸竹22φ)を押竹(50縦割)をカットして下さい。
※図2参照
注:組子は図2の内々サイズのマイナス5mmにカットして下さい。押竹はアルミ支柱間の長さにカットして下さい。
注:竹演19セットの組子及び押竹は定尺にカットされています。(H1800時:865mmでカットされています。)

⑤組子を端部にはめます。この時ステン凹金具のビスが出てはまらない為、一度ステン凹金具のビス4×16をはずして、竹をはめ込み再度ビス止めして下さい。
※図3参照

⑥残りの組子をはめて下さい。はめにくい場合は組子をしならせて(曲げて)はめ込んで下さい。

⑦組子のたれ防止の為、ブロンズビス(4×16)で上下3ヶ所ずつ竹を引っ張って下さい。※図4参照

■胴縁・組子取付図

図2

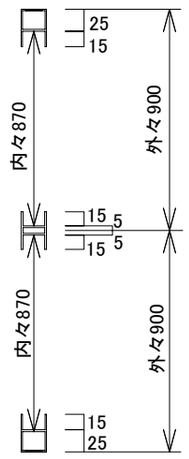


図3

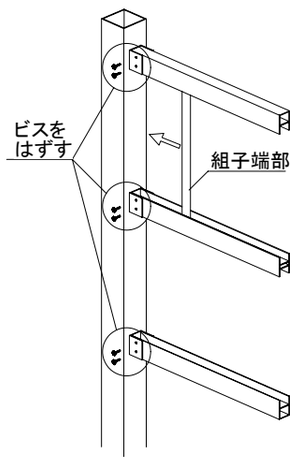
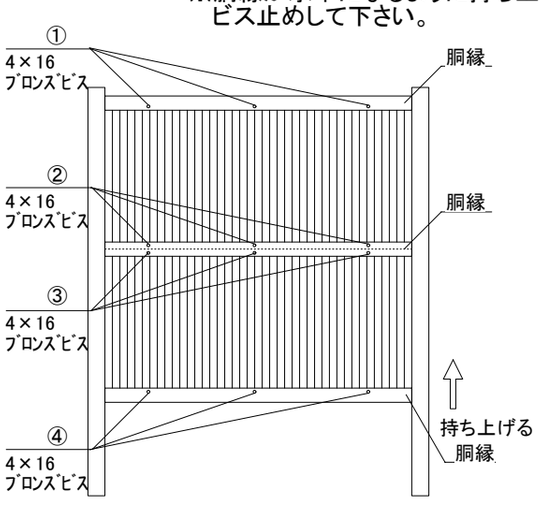
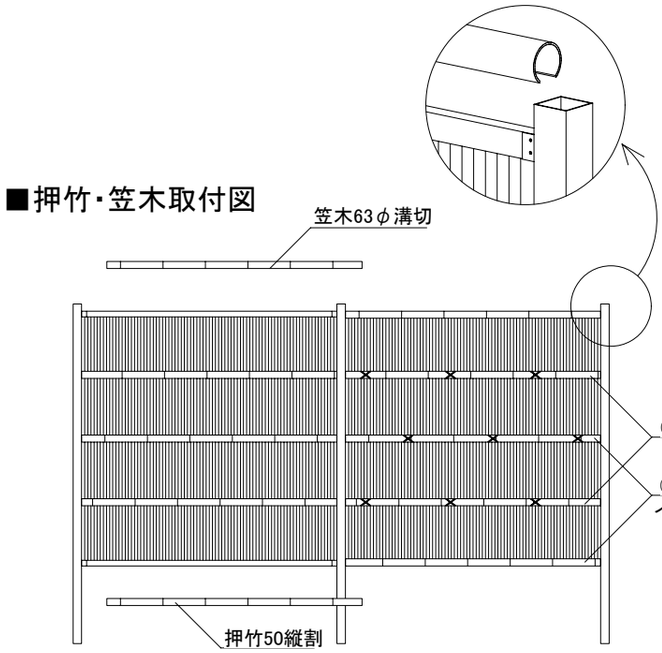


図4

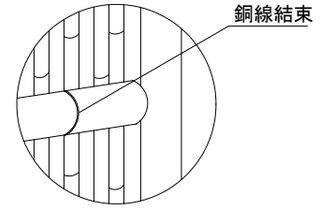


手順 1 一番上部の胴縁にビス①を止める
2 一番下部の胴縁を持ち上げながら、ビス②を止める
3 同様にビス③④を止める。
※胴縁が水平になるように持ち上げてビス止めして下さい。

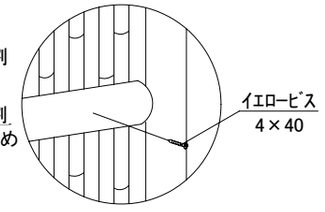
■押竹・笠木取付図



1 押竹50縦割 銅線結束

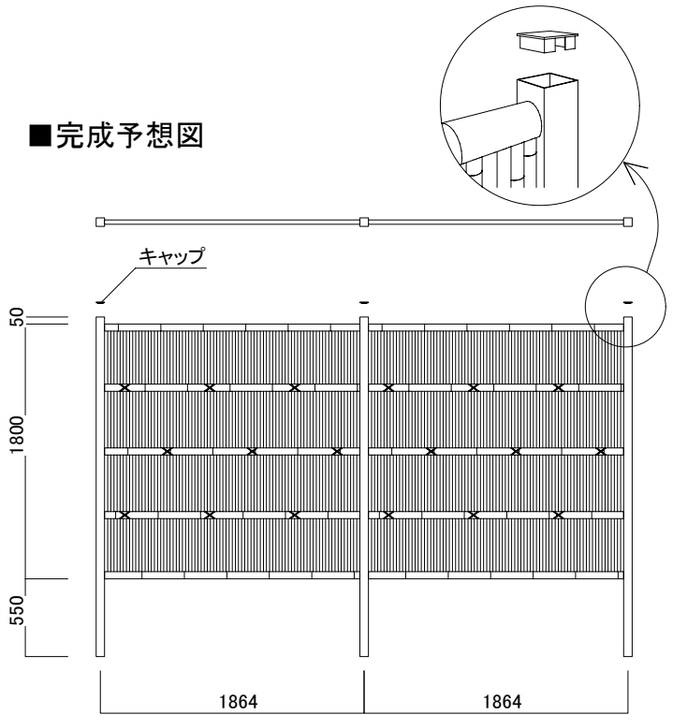


2 押竹50縦割 ビス止め



【竹演19】
⑧押竹(50縦割)を 1 銅線結束、
2 イエロービス4×40止めにて取付して下さい。
※①の銅線は、バンロープを結び位置(約600ピッチ)の所で結束して下さい。
②のビスはバンロープを結ぶ位置で止めて下さい。
※バンロープは千鳥になる様に結んで下さい。

■完成予想図

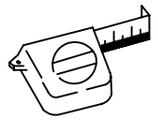


⑨笠木 溝切63φを上から取付けて下さい。
取付はイエロービス4×25を使用して下さい。
注:600mm位のピッチで止めて下さい。

⑩バンロープで飾り付けて下さい。
(別図:バンロープの結び方を参照)
注:600mmピッチ位ををを目安に千鳥になるように飾り付けて下さい。
注:カタログのバンロープの結び方参照
注:真ん中部分は、H型胴縁がある為、一度押えのビスをゆるめてバンロープを 通して結び、再度ビス止めして下さい。

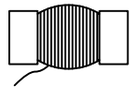
⑪アルミ支柱にキャップをはめて下さい。

施工道具、工具



巻　尺

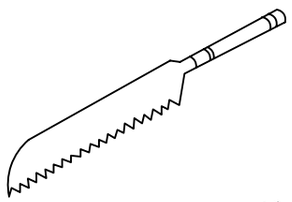
水平器



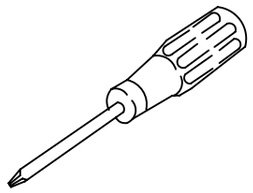
水　糸

穴堀り用スコップ

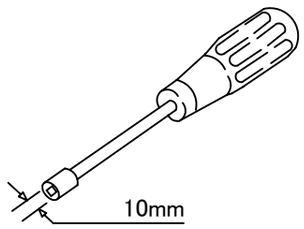
スコップ



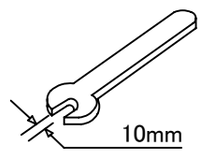
ノコギリ



⊕ドライバー



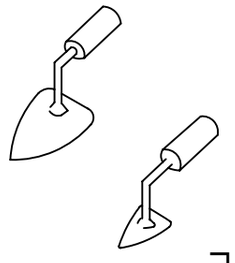
ボックスドライバー



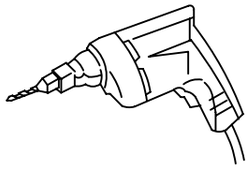
レンチ

砂

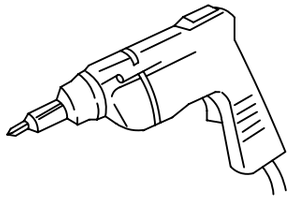
セメント、工具一式



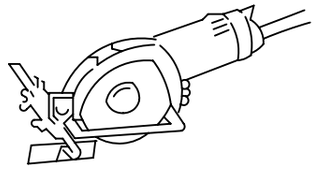
コ　テ



ドリル



スクリュードライバー



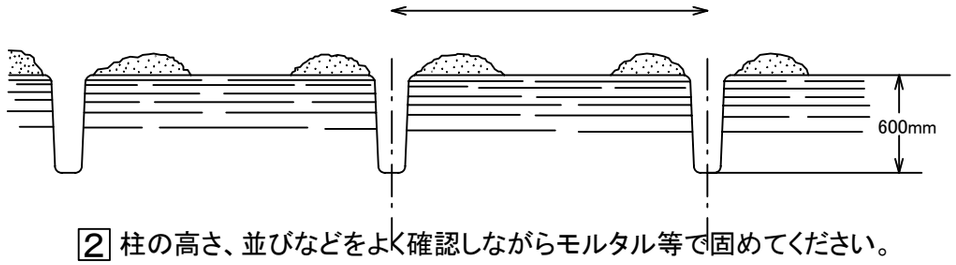
サンダー

基礎作業および細部取付図

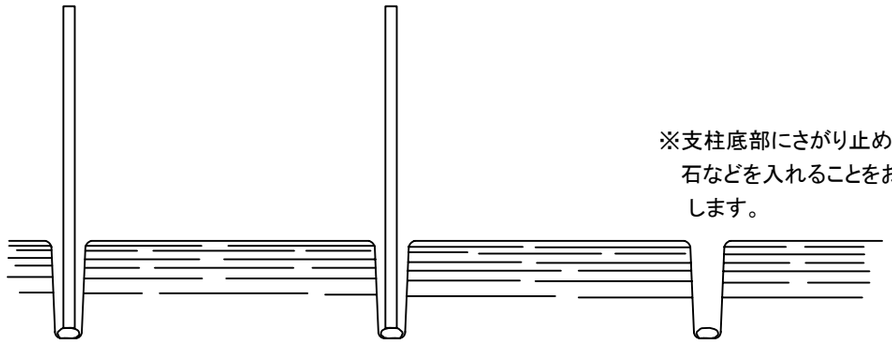
グローベン

基礎作業　1 地中に穴をあけます。

※タイプにより柱ピッチが違います。
確認のうえ、施工して下さい。

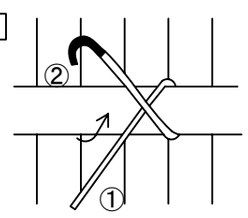


2 柱の高さ、並びなどをよく確認しながらモルタル等で固めてください。

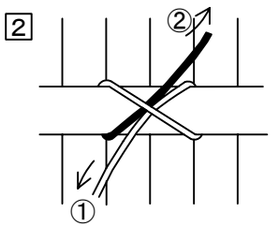


※支柱底部にさがり止めのため、
石などを入れることをお勧め
します。

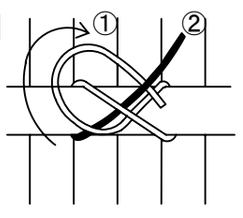
＜バンロープ（シュロ縄）の結び方＞



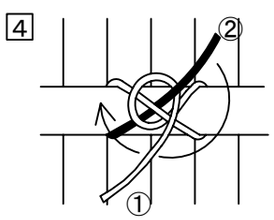
押竹の後ろに②をくぐらせる。



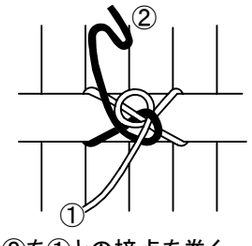
①と②を→方向に引く。



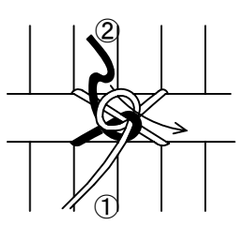
①を②の下にくぐらせ、輪を作る。



輪の接点を手で固定しながら②をまわす。

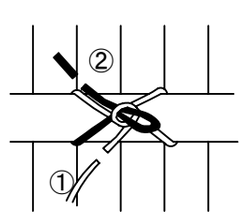


②を①との接点を巻くようにくぐらせる。



②の先を①で作った輪の中へくぐらす。

くぐらせた②の輪でリボンを作る。①を引く。



①と②の先をリボンと同じ長さに切り落とす。

※結び終えたらバンロープの先がほつれないよう火で焼いてください。